



頭辛し七家に歸せし家内は右の爲体ゆに彌騷動云ん方なく廳
 に出て之を誂へし番頭夜中に他出せし有に疑ひくまきあへ
 共問にぐるぐるゆ大さの身躰勞れ共いぬと賊と正に云は進
 實殺さる物ある云ては我身賊に陥入るべしと心に思ひたるに
 童役の人へ賊はやうく如此と見ると見ると申し告るに
 豈剛んや三人の賊はを是し有土族の人と云ふ皆二度
 悔りて終に召捕る番頭九死一生と得て助かりしとや

用て他行し選く家に歸らんとする時測
 らむ此三人の賊に出逢恐怖し家に入る途退んと
 駈出せし追追らる如く覚たれ途松の大木によ
 り登り難と進れんとする処右三人の賊此松の下に來り
 七件の掠り取る金と面々分ち取て意に立去りたる番
 と出まんとせ然るに當家の番頭商
 主人及び手代兩人と斬害し
 巨万の貨幣と掠奪し其家

信房佐
 久郡岩
 村田の町に或豪家有り
 當一月の末夜剛盜三人入て

日々新聞

眞信堂

永正堂

